



▶ 東山キャンパス
月～金（祝日を除く）
9：00-17：00
052-789-5806



▶ 鶴舞キャンパス
火（祝日を除く）
9：00-17：00
052-744-2827

Coming
soon・・・

▶ 大幸キャンパス
2013年4月開室予定

ハラスメント相談センター 便り

今回は、昨年末に開催いたしました東京大学 学生相談ネットワーク本部
精神保健支援室 コミュニケーション・サポートルーム室長 渡邊慶一郎
先生による講演のダイジェスト版をお届けします。

皆さんは発達障害についてどれくらいご存知ですか？これらの障害を持った人は、周囲との軋轢を生みやすく、本人は戸惑いと不安の中、日々過ごしています。

私たちがお互いの短所を補い合い、長所を伸ばしていけるといいですね。

発達障害がある学生を 理解して支援する



広汎性発達障害の特徴（PDD）

- 社会的相互交渉の質的障害
 - ・視線の合いにくさ
 - ・孤立傾向
 - ・他人との情緒的交流が苦手
- コミュニケーションの質的障害
 - ・字義通りの理解
 - ・ぎこちない会話のやりとり
- 反復的な行動、限定された興味
 - ・細部にこだわり全体が見えない
 - ・臨機応変に対応できない

注意欠如・多動性障害の特徴（AD/HD）

- 多動
 - ・そわそわしている
 - ・お喋りばかりするが脱線が多い
 - ・余暇活動でひんしゆくをかったり、疎まれている
 - ・仕事を引き受けすぎる
- 衝動性
 - ・失言や早とちりが多い
 - ・順番を待つことが苦手
 - ・話に割り込む
- 不注意
 - ・退屈で細かい作業に難渋する
 - ・何をどこに置いたか忘れる
 - ・片付けなど精神的努力が必要な作業が苦手
 - ・ひとつの事柄を最後までやり遂げられない
 - ・順序立てが苦手
 - ・話しかけられても気づかない
 - ・会話に集中できない
 - ・会話がそれる

生物学的研究により、精神論の問題ではなく、脳の機能の多様性に関係していることが解明されている。



修学上の配慮を要請する根拠

○発達障害者支援法（第二章 第八条）

2. 大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮をするものとする。

○改正教育基本法（第四条）

2. 国及び地方公共団体は、障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない。 e t c



教職員への助言

(どのように対応したら良いかわからない)

- やりとりをスムーズにするために
伝える内容はシンプル＆クリアにする。
資料の視覚化（レジュメの活用）。
口頭による指示よりもメールで明示的に説明する方が良いことも。
具体的に伝えることを心がける。
- スモールステップ
課題について自由に考えるように指示し、後から評価軸を明かすのは不向き。
全体像を提示して共有し、それに向けて小さいゴールを設定する。
小さなゴールは失敗しないくらいの難易度にとするとスムーズ。
- 本人のやる気をアップ
叱責よりも褒めること。出来ている事を見つけて評価する。本人が取り組んでいる事に焦点をあてて、具体的に褒める。
- 適切に優しくガイドする
定期的にミーティングを行う。
予定の変更は早めに告知する。
重要なポイントはなぜそれが大切で優先順位が高いのか、噛み砕いて説明する。説明ごとに中身がずれると混乱することがあるので注意。
- 援助者が孤立しないで支援する
ひとりで当事者を支援しようすると負担が大きくなることもある。
相談機関の利用や家族の協力を得ることもある。

修学支援の課題

○入学前からの把握が困難

発達の凸凹が、環境の変化により、大学入学後にはじめて問題として顕在化するケースが多い。

(環境との相互作用で不適応の現れ＝障害が顕在化する)

○本人が障害への認識が低い

問題が生じていても障害によるものと認知されにくい、自身の特徴への理解も進みにくい。従って本人からの支援要請がスムーズに行われ難い。

本人からの支援ニーズが明示的な言語で示されるばかりではない。

○支援内容の妥当性を判断する機関の不足

支援の必要性や内容についての妥当性を判断する仕組みがないため、個別の交渉を繰り返すことになる。

支援のポイント



発達障害はなだらかなスペクトラムがあるとされています。あれ？と思う学生がいたら、まずは対応を変えてみてください。「私の説明だと戸惑うことがありますか？」など本人に聞いてみてもよいかもしれません。

得意、不得意の凸凹が激しいのが発達障害の特徴ですが、「障害」といっても過度に捉える必要はなく、1つの個性として理解してみるとよいかもしれません。どうしても苦手な事、不得意な事に目がいつてしまいがちですが、得意分野を伸ばせる指導ができるといいですね。そのため、修学上の支援はレベルを下げ、成績に下駄をはかせるのではなく、研究しやすいように体制を整える事が目標です。

本人の凸凹と環境の凸凹のミスマッチで問題が顕在化するので、環境を整えることはとても大切なポイントです。

今回は、発達障害の学生に関する特集でしたが、こうした特徴は学生に限られるものではありません。周囲の同僚をよく観察し、必要に応じて環境を整えていくことがハラスメントのない環境を作ることに繋がります。

何かお困りのことがありましたら、いつでもハラスメント相談センターをご利用ください。



Harassment Consultation Center.

464-8601

名古屋市千種区不老町 工学部 7号館 B棟 2階
共通 E-mail : h-help@post.jimu.nagoya-u.ac.jp
<http://www.sh-help.provost.nagoya-u.ac.jp/>